

平成24年度自己評価シート(中間評価)

校番	209	学校名	呉市立呉高等学校	校長氏名	越智博司	全日制	本校
----	-----	-----	----------	------	------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当分掌			
1 進路実現できる学力の向上							
教員の指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領に対応したシラバスを作成する。 ○授業交流週間、研究授業に関する校内研修会を行う。 ○「ひろしま学びのサイクル」を意識した授業を展開する。 ○教科会を月1回以上、継続して行う。 ○定期考査等の作問能力の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○シラバス作成に向け、新学習指導要領の研修は、6月に科目選択の研修とともにを行い、8月に広島県教育委員会の伝達講習会に3教科の教員が参加した。 ○授業交流週間及び研究授業に関する校内研修会を12月に行う予定である。 ○広島県立教育センターのサテライト研修「『学校全体で取り組もう！授業研究のポイント』講座」を本校で実施した。研修をもとに本年度の研究授業では本時の授業に仮説を立て、仮説を検証する形で研究協議を行うことにした。 ○9月～12月に授業研究を行う予定である。その際、「ひろしま学びのサイクル」及び「言語活動の充実」を意識した授業を行うことにしている。 ○教科会は概ね週1回程度行っている。 ○定期考査等の作問能力の向上に係る取組みを継続して行っている。 	教務研修			
	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全般において、言語活動の充実を意識する。 ○「言語活動の充実」を意識した授業に係る学習指導案を作成し、研究授業で成果や課題を確認する。 		B		<ul style="list-style-type: none"> ○1学期末に行った授業評価アンケートの結果、88%の生徒が肯定的な評価をしている。 ○次のような「言語活動の充実」を意識した授業を展開している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動の充実」を意識した授業に係る学習指導案を全教員が作成し、それにもとづいた授業を行う予定である。 ・自分の意見、感想等を1分程度にまとめて発表する。 ・定期考査等で思考力や表 	教務研修	

			現力を問う問題を出題する。	
	○学力向上対策会議において、各教科・各学年主任と連携して、経営法の実施状況について検討する。	B	○年間計画どおりに拡大学力向上対策会議1回、学力向上対策会議2回を実施している。定期的に会議を行うことによって、教科や学年団の中で対策について議論をし、その内容を会議で共有する流れができています。	進路指導
	○進路指導年間計画にもとづいて取組みを行うとともに、国公立大学合格に向けた指導計画を5月初旬に別途作成し取組みを推進する。 ○特進クラス担当者連絡会議を毎学期行い、取組みの方向性を共有するとともに、個々の生徒の状況を把握し必要に応じて進路指導部による個別面談を行う。 ○難関大学合格プロジェクトチームを発足させ対策を講じる。	C	○進路指導計画にもとづいて取組みを進めている。国公立大学指導計画については現在作成中である。 ○特進クラス担当者連絡会議は1学期に行えていないが、1年を9月に、2年を10月に開催し、課題を共有するとともに課題解決に向けた議論を行っているところである。学校全体で課題を共有するには至っていない。2年特進クラスについては担任等の面談とは別に校長・進路指導主事による個別面談を行った。 ○3年次難関大学受験予定者2名に対して7月から個別面談指導を行うとともに9月に難関大指導担当者会議を開催し、生徒・教員で戦略を確認し対策を進めている。1、2年次の受験予定者については個別の指導になっており、体制が整っているとは言い難い状況である。	進路指導
自律的学習者の育成	○家庭学習時間の改善を重点課題ととらえ、量と質の向上を図る。そのために、学習時間の集計を毎週行い、目標値を達成していないクラスや個々の生徒をピックアップして対策を講じる。	B	○学習時間の集計を毎週行い、全教職員に提示するとともに個人カルテに盛り込むことによって個人面談や三者懇談等における指導に活用している。	進路指導
	○朝学習の実施要項を作成し、生徒が行いやすいように条件整備する。 ○生徒会と連携し、推進のためのキャンペーンを組む。	C	○朝学習の実施要項については作成していないが、補習を行うことによって早朝登校する生徒や自主登校して学習する生徒が見受けられる。 ○生徒会との連携を行っていない。	進路指導

	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館経営計画を策定する。 ○学校図書館利用教育を充実させる。 ○図書委員会を中心に、読書活動を活性化する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館経営計画を起案中である。 ○読書活動への教員の意識が低い。 ○図書委員会活動を計画どおり定期的に行っている。 ○図書だより等を定期的に発行(5号)し、新着図書の紹介等を行っている。 	教務研修
模試に対する指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○早朝・放課後補習を全学年で実施し、上位層の学力向上を図る。 ○学力向上のための会議を年間7回、進路検討会議を1・2学年は各2回、3学年は3回実施し、学力分析を行うとともにその向上を図る。 ○各学年とも生徒の個人カルテを作成し、教育相談や三者懇談等において活用する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○早朝・放課後補習を全学年で実施している。 ○学力向上のための会議を現在すでに3回実施している。進路検討会議については進路指導計画にもとづいて予定通り実施し課題解決に向けた取組みにつなげている。 ○各学年とも生徒の個人カルテを作成し定期考査ごとの教育相談や個人面談等で活用している。 	進路指導

【評価結果の分析】

＜教務研修部＞

- 教職員の指導力向上に向け、「新学習指導要領」「言語活動の充実」に係る研修や実践は概ね順調に進んでいる。シラバスの作成について、観点別を意識した評価を本年度版から明示し、取組みを始めている。
- 学校評価(中間評価)教職員アンケートの項目16「生徒に読書習慣を付けるように努めている」は「よくあてはまる」15%、「ややあてはまる」49%で、両方を合わせても64%と低い。学校図書館経営計画の策定に時間がかかり、経営計画を教職員に周知し、経営計画及び年間計画にもとづいた指導が遅れたことにもよる。
- 本年度初めから、図書委員会が生徒一人一人の「読書カード」を作成し、読書活動を記録し振り返りに生かせる取組みを始めた。「読書カード」の活用法に課題がある。
- 朝読書の取組みは全校で進めている(8時30分から8時37分まで静かに読書のみを行う)が、ホームルームによって取組みに差があり、その内容に違いが生じている。
- 学校図書館の図書貸出状況は総数で見ると前年度比111%(9月末現在1,321冊(前年度1,188冊)であるが、年次によって違いがある。1年次は227冊→223冊、2年次は140冊→206冊、3年次は624冊→735冊である。3年次はフロンティアⅡに積極的に取り組んでいる成果であると考え。1、2年次生の図書館利用を活性化する必要がある。
- 読書冊数は「読書カード」の記録をもとに算出した。全体平均2.7冊、1年次平均1.9冊、2年次平均4.4冊、3年次平均1.7冊で、目標(18冊)を下回っている。図書貸出状況とかけ離れており、「読書カード」の記録、活用に課題があると思われる。

＜進路指導部＞

- 特進クラスを設定することによって、高い目標が意識づけられて学習意欲が高まり、その結果上位層の成績が若干ではあるが向上していることがわかる。例をあげると現2年次生の進研模試偏差値50以上の人数が、1年次7月23名→2年次7月25名(現3年次生は1年次7月32名→2年次7月23名)と変化している。しかしその一方で、取組みを詳しく検証した上で今後の方向性を検討する場が少なく、教員全体のものとなりえていないという実態がある。
- 難関大学志望者が3年次生は2名、2年次生、1年次生は明確でない。特に難関大学については、生

徒に低学年から自覚させ取組みを進める必要があるが、1・2年では模試や担任との懇談で話題に上る程度であって組織的な指導になりえていない。

- 学習時間をアップさせるために朝学習を推進する必要があるが、実際には取組みが進んでいない。理由としては落ち着いて学習できる教室の確保が難しいことや、生徒会との連携が行われていないことがあげられる。平均学習時間は、各学年とも本年度は前年度よりも増加しているが、これは学習時間調査の集計を毎月提示して全教員で意識して取り組んだことによると思われる。
- 「きめ細かい進路指導」に対する保護者の肯定的回答（保護者アンケート項目7）は、本年度中間70%（前年度末66%）である。前年度よりも進路だよりの発行回数が増加しており保護者への情報提供を行う努力はしているが、科目選択や進路選択における取組みがまだ不十分であり、保護者に実感されていないと考えられる。

【今後の改善方策】

＜教務研修部＞

- 学校図書館経営計画を早期に策定し、研修会等を通して教職員への周知徹底を図る。
- 教員の指導力の向上に向け「言語活動の充実」に係る研修及び実践を積み重ねていく。そのための機会として、9月から12月にかけて行う公開授業研究等を活用する。
- 朝読書の意義についてさまざまな機会を通して生徒に意識づけるため、学年会等での取組みを促す。加えて図書委員会からの呼びかけをより活発にする。
- 10月31日(水)(全学年)に予定している「ブックトーク」を利用して、全校で学校図書館利用を活性化する。
- 「読書カード」の記録情報を定期的に公開し、読書活動の推進に生かす。

＜進路指導部＞

- 特進クラスの導入から1年半が経過したこともあって、これまでの検証を連絡会議という形ではなく推進委員会を設定して行う。今後の方向性も含めて全教員で共通認識した上で取組みを進めていく。
- 難関大学の対策については、次の3点を行う。①1年次から志望を意識させる。②授業時の状況や模試の結果等を綿密に分析し学習指導を行う。③難関大学対策についての研修会を行う。
- 朝学習については、特進クラスのホームルーム教室を会場として、私語のない学習空間を設定する。進路指導部が中心となり、教務研修部や生徒指導部とも連携して朝学習の推進を行う。
- 科目選択に関する情報提供を早い段階で行う。進路指導の状況が保護者にも伝わるように進路指導計画保護者版を少なくとも学期ごとに発行し保護者に渡るようにする。

2 自立した社会人としての規範意識や社会性の涵養				
自立した生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会と連携し、規範意識に関わるキャンペーンを年間計画に位置付け、実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ①遅刻撲滅キャンペーン ②授業規律確立キャンペーン ○教職員の共通理解を図るために生徒指導規程及び生徒指導マニュアルの整備を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○目標値(一日平均遅刻者数 1.0人)や遅刻状況を遅刻撲滅キャンペーンで広報した。現在0.97人/1日平均で目標値を達成している。 ○授業規律確立キャンペーンでベルスタートに関する共通認識を図った。生徒会(生活委員会)による集約では十分に達成しているとは判断できない。 ○年度始めに生徒指導規程と生徒指導マニュアルを分けて整備した。 ○特別な指導(別室指導)件数は現在4件(年間目標値6件以下)である。 	生徒指導

生徒会主体の行事の充実	<p>○生徒会が諸活動(体育祭・文化祭・クラスマッチ)の企画運営の中心的組織になることにより、充実感及び達成感を味わわせ、生徒それぞれの責任感を高める。</p> <p>○各行事後に生徒会によるアンケートを実施し、集計結果を分析し広報する。</p> <p>○教職員が評価を行い、よりよい活動となるよう継続的に指導する。</p>	B	<p>○生徒会が主体となって諸活動の企画運営を行い、各行事(体育祭・文化祭)の満足度に関する生徒アンケート結果は95%で目標値を達成している。</p> <p>○行事のアンケート結果については今後広報する予定である。</p> <p>○各行事の運営方法については今後検討の余地がある。</p>	生徒指導
「産業社会と人間」「フロンティアⅠ・Ⅱ」の充実	<p>○「産業社会と人間」と総合的な学習の時間の系統的な学習プログラムを完成させる。</p> <p>○生徒の発達段階に応じた表現力の育成を図る。</p>	B	<p>○「産業社会と人間」等の年間指導計画を相互の連携を図りながら改良している。</p> <p>○フロンティアⅡ(卒業研究)の指導を広島文化学園大学等の高等教育機関と連携して行っている。</p> <p>○授業評価の結果、「産業社会と人間」は66%、フロンティアⅠは70%、フロンティアⅡは81%の生徒が肯定的評価であった。</p>	教務研修
教育相談活動の充実	<p>○教務研修部・進路指導部と連携し定期考査中の教育相談活動を継続し、内容の充実を図る。</p> <p>①実施状況を教務研修部と連携し集約する。</p> <p>②実施の際に生徒指導部で把握する。</p>	B	<p>○現段階での各ホームルームの教育相談実施日数は平均7.3日で、目標値の約50%を達成している。</p> <p>○生徒指導部実施のいじめアンケートとリンクして教育相談を実施することができた。</p>	生徒指導

【評価結果の分析】

<教務研修部>

- 「産業社会と人間」については、1学年会を中心に年間指導計画に適宜改良を加えながら授業を進めている。本年度新たに新聞を通して社会について学んだことを新聞にまとめる「マイ新聞づくり」を実施し、市呉祭で展示発表した。
- フロンティアⅡ(卒業研究)の授業では、広島文化学園大学の先生に10名の生徒を月1回のペースで指導していただいたり、広島国際大学の先生に電子メールを使って指導していただいたりしている。
- 「産業社会と人間」及び総合的な学習の時間の企画、運営に遅滞をきたす場面がみられる。

<生徒指導部>

- 朝の校門指導及び朝のSHRでの継続指導により、生徒の規範意識が高まると同時に、年度始めの確認及び月別集計結果の迅速な広報により数値目標(1日平均1.0人以下)が生徒全体の共通認識となっている。遅刻撲滅キャンペーンも共通認識にもとづいて実施することができるため、生徒会中心に具体的な目標を設定し、示すことができた。また、キャンペーン中は遅刻状況速報を生徒会掲示板で広報し、生活委員が各ホームルームの遅刻状況を報告する等、生徒の自主性を生かした取り組みとなるよう工夫した。これらの取り組みが1日平均遅刻者数の減少につながっていると考える。(0.97名/1日平均)
- 授業規律徹底キャンペーンでは、本年度から重点目標としている「バースタート」を中心に取り組んだ。生活委員が中心となって、呼びかけや状況集約を実施したが、授業がホームルーム単位ではないため、正確な状況把握は難しく、生徒の感想としての集約しかできなかった。
- 生徒指導規程及び生徒指導マニュアルの整備を行ったが、教職員の共通理解を図る場が少なく、生徒指導部からも積極的な呼びかけを行っていないため、事案発生時に規程の確認をして対応するケースが多かった。
- 現在特別な指導(別室指導)は4件である。前年度同時期(7件)と比較して減少している。

- 生徒会主体の行事に関する生徒アンケートの肯定的意見は、前年度の86%から95%となり、行事内容が生徒の意識と合致している。一方で教職員アンケートでは各行事の企画運営の改善点も挙げられており、今後の検討が必要である。
- 1学期期末考査前に実施したいじめアンケートを期末考査中の教育相談に生かし、気になる事案については早期に生徒対応をすることができた。
- 1学期の各ホームルーム教育相談実施日数の平均は7.3日で、目標値の約50%を実施している。担任、副担任に加え、学年主任も教育相談を担当し、より充実した教育相談になるよう工夫している。

【今後の改善方策】

<教務研修部>

- 「産業社会と人間」及び総合的な学習の時間の担当者と学年会等の連携を深め、早期の起案を行う。
- フロンティアⅡ(卒業研究)にかかわって、関係者の会議を持ち、ゼミ担当者や教務研修部との情報交換の場を持つ。
- 「産業社会と人間」及び総合的な学習の時間の授業アンケートの結果(中間)を生かし、今後の授業計画に反映させる。

<生徒指導部>

- 遅刻撲滅キャンペーンは2学期以降も実施予定である。1学期はキャンペーンの単独実施だったが、今後は生徒会のあいさつ運動などとも連携し、内容の充実を図りたい。授業規律徹底キャンペーンは個々の授業の様子を把握して対応していく。
- 生徒指導規程にもとづく共通理解事項は、生徒指導部が主体となって学年会等で広報し、共通理解を図る。特別な指導は、事案内容だけでなく実施マニュアルについても学年やホームルームと担任の共通理解が図れるよう、生徒指導部が主体となって連携する。
- 生徒会主体行事については、生徒満足度の高さだけにとらわれず、教職員の助言を生かし、次年度に向けて行事内容を改善していく。
- いじめアンケートが期末考査中の教育相談に生かせるよう、11月中に実施する。
- 今後も教務研修部と連携し、教育相談を実施する。

3 部活動の充実				
部活動実績の向上	○各種大会での上位入賞及び中国大会出場人数及び部の数を増やす。	A	○県レベル以上の各種大会で上位入賞を果たした部活動は7団体、大会延べ数では18大会である。 ○中国大会以上出場部活動数6団体、大会延べ数では8大会である。また出場者延べ人数は86名である。	生徒指導
部活動の活性化	○大会やコンクール等の結果を迅速に伝達し、生徒・保護者へ広報するとともにHPへ反映させることにより、部活動の意義の広報を図る。 ○顧問へのアンケートを年2回(6月、10月)に実施し、その結果を集約・広報する。 ○部活動の出席状況を生徒会主体で集約し、部活動活性化の手立てにする。 ○部活動加入状況を調査し実態把握に努めるとともに、未加入生徒へ教育相談等を通して加入を促進する。	B	○大会やコンクール等の結果が迅速にHPに反映されている。 ○顧問アンケートによると活発に部活動に参加している生徒の割合が90%を超える部は58%で目標値を大きく下回っている。また生徒会主体で集約した出席実数では90%の出席率を達成している部は30%である。 ○部活動加入状況は、1年次生78%、2年次生81%、3年次生83%、平均81%で目標値を達成している。	生徒指導

【評価結果の分析】

- 中国大会以上出場部の数及び人数は現在6団体86名である。これは前年度(4団体54名)を大きく上回っている。また、県レベル以上の各種大会でも7団体(大会延べ数18大会)が上位入賞を果たしており、部活動実績は向上しているといえる。
- 顧問アンケートによると、活発に部活動に参加している生徒が90%以上の部は58%で、前年度の69%を下回っている。これは目標値(80%)を大きく下回っている。また、生徒会主体で集約した出席状況においても、常時90%以上の生徒が参加している部は30%である。部活動加入率は目標値を達成しているが、加入後は活動していない生徒もあり、一部の部活動が活性化するとどまっている。

【今後の改善方策】

- 現在、大会やコンクール等の入賞実績はないが活発に活動している部も多い。また、部単位で積極的にボランティアに参加している部もある。これらの表に表れにくい活動についても紹介し、部活動における自尊感情の育成に努めたい。
- 顧問の見取りと生徒の出席状況集約に差異がある。活発に活動している生徒の割合について明確な判断基準を設けるよう今後検討する。

4 学校情報等の積極的発信及び学校や地域社会、各種団体等への貢献				
学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者を対象にする各種通信手段・内容を充実する。 <ul style="list-style-type: none"> ①各学年・進路指導部と連携し、学年通信・進路だより等の各種通信を計画的に発行する。 ②中間考査の成績表を郵送する際、通信等の情報を直接保護者に届ける機会として活用する。 ○数値で教育活動の現状を見るシート「データで見る呉高等学校の教育」を作成し、学校情報のデータ共有及び発信に活用する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○行動計画にもとづいた取組みが行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ①学年通信、進路だよりの発行回数は、平均で4.7回、すべてが4回以上で目標値(8回)の50%を達成している。 ②1学期中間考査の成績表と各学年の進路だよりを郵送した。 ○「データで見る呉市立呉高等学校の教育」の作成に向けて、データの収集及び方針検討を行っている。 	総務企画
地域や社会に貢献しようとする態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動の参加を通して自尊感情を高める取組みを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ①生徒指導部と連携し、生徒会の掲示版にボランティア活動のコーナーを設け、生徒による広報を充実させる。 ②1学年と連携し、1年次に「ボランティアの意義」及び「本校のボランティア」についてオリエンテーションを行う。 ③2学年と連携し、2年次に「ボランティア活動の意義の理解」をテーマにしたホームルーム活動を実施する。 ④生徒指導部と連携し、生徒総会で活動報告及び活動方針の説明を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○目標の取組みが行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ①生徒会の掲示版にボランティア活動のコーナーを設けた。 ②新入生オリエンテーションでボランティアについて紹介した。 ③2年次のホームルーム活動は、12月実施の計画である。 ④生徒総会で活動報告及び活動方針の説明を行った。また、全校集会で家庭クラブ委員長が活動報告を行っている。 	総務企画
保護者や学校関係者評価委員からの教育活動の肯定的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や学校関係者評価委員が本校の教育活動の状況を十分理解できるように、学校HP、各種通信での広報、保護者参加の学校行事、学校関係者評価委員会でのわかりやすい説明等の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各種学校説明資料について学校経営計画の4本柱を明確にする改善をし、学校説明に活用している。 	総務企画

			○学校評価(前年度年度末評価まとめ)から保護者向けに改善策を重点化した資料を作成し、PTA総会後の学校説明に活用した。
--	--	--	---

【評価結果の分析】

- 学年通信・進路だより等、各種通信の発行回数を評価指標にして、保護者を対象にした情報発信の充実に取り組んでいる。前年度の同時期の平均発行回数 2.3 回から 4.7 回に発行回数が増えた。保護者アンケート項目 16 において、「通信等で情報発信に努めている」に対する肯定的評価は 75% (前年度末 74%) で変化がない。教職員アンケート項目 20「教育活動の充実のため、積極的に広報を活用する」率は前年度末 56%から 65%に上がり、教職員の意識には変化が見えはじめています。
- 1 学期中間考査の成績表とともに各学年の進路だよりを発送した。2 学期中間考査の成績表送付については、さらに機会の活用を図り、送付する内容について検討する必要がある。また各学年の進路説明会も、従来よりも時期を早め、出席者も増加の傾向にあるが、「進路について保護者に必要な情報が提供されている」(保護者アンケート項目 6) の肯定的評価は、69% (前年度末 66%) にとどまっている。
- ボランティア活動については、生徒会の掲示版にボランティア活動のコーナーが設けられ、募集、活動報告、新聞記事、礼状等を掲示している。特に活動風景の写真や新聞記事の紹介等の掲示が生徒によく見られていた。新入生オリエンテーション、生徒総会の説明は、時間の保障、視覚資料の準備などに課題がある。
- 「ボランティア活動に積極的に取り組んでいる」(生徒アンケート項目 17) と回答した生徒は、前年度末の 42%から 55%に増加している。「ボランティア活動を通して自分が人に役に立つことができると感じている」生徒は 75% (生徒アンケート項目 16, 初調査) で、積極的に参加できていない生徒も、参加する機会があり、ボランティア活動を体験することで充実感が得られ、自尊感情の高揚につながっていると考えられる。
- 「学校案内」パンフレット、学校説明プレゼンテーション資料、保護者向け学校説明資料等の内容・構成を、学校経営計画の 4 本柱を明確にして学校の方針をわかりやすく伝えるように改善して活用している。
- 保護者アンケート項目 20「呉高等学校に行かせてよかった」の肯定的評価は 85% (前年度末 82%) である。肯定的評価が低かった項目についての分析及び改善が必要である。

【今後の改善方策】

- 分掌・学年の情報発信の年間計画を一覧にして校内で発行予定を共有し、連携して組織的に内容の充実及び発行機会の効果的な活用をすすめる。
- ボランティア活動の広報について、視覚に訴える、参加者の声を伝える、多種多様なボランティアがありさまざまな役の立ち方があることを伝えるなど、生徒による広報をさらに充実させる。
- 次年度に向けて、ボランティア活動についての生徒会活動・ホームルーム活動の年間指導計画を検討する。
- 保護者への中間評価の報告は、自己評価シートをHPに掲載するとともに、保護者を対象にした資料を別途作成し、懇談会で配付して行う。

自己評価基準

- A: 計画はとても順調に進んでいる。
- B: 計画は概ね順調に進んでいる。
- C: 計画はあまり順調に進んでいない。
- D: 計画はまったく順調に進んでいない。